

みんなで発見「地域資源ポロトの森」

胆振東部森林管理署

若松 ちさと

中西 誠

塩谷 昌土

1. はじめに

当管理署では平成 24 年 7 月から、管内にあるポロト自然休養林（以下、ポロトの森）を地域資源として活用することを考える協議会、「地域資源ポロトの森」パートナーシップ協議会に取組んでいます。当管理署の呼びかけによりポロトの森に関わる地域団体で発足したこの協議会で、地域資源の再認識、活用保全に向け協働で取組みを進めています。

2. ポロトの森の概要

ポロトの森がある白老町は札幌より南約 90km、道央自動車道を利用すれば車で 1 時間程度の場所に位置しています。

ポロトの森は面積約 395 ha の孤立した国有林で、昭和 51 年ポロト自然休養林として指定されています。

「自然休養林」とは、優れた自然景観を有し、森林浴等森林レクリエーションに適した森林として、国民の皆さんに親しまれている国有林です。

「ポロト」という名前はアイヌ語で、「大きい沼」という意味で、名前の通り森の入口には湖が広がっています。森林の構成は約 5 割がミズナラやカエデ等の天然林で、約 3 割がトドマツやエゾマツ等の人工林です。

ポロトの森にはキャンプ場、バンガロー、遊歩道などの施設があり、町と観光協会が運営しています。これら施設の年間平均利用者数は、過去 5 年間では約 25 千人程度で、この外に森林散策や散歩を楽しみに訪れる方もいらっしゃいます。

3. 取組みの背景

協議会発足の背景となったのは、平成 23 年 11 月、白老町と当管理署が共催で開催した「第 21 回白老森林フォーラム」にあります。「地域資源ポロトの森の将来ー活用から保全を考えるー」というテーマで開催されたこのフォーラムで、北海道大学観光学高等研究センターの敷田教授をお招きした基調講演では、ポロトの森の「観光、地域振興、環境保全のバランスが取れた」仕組みへ向け「活用を考えるには、まず地域の人自身でポロトの森の重要性を知ることが大事だ」というご意見をいただきました。



写真 1 ポロト自然休養林開園

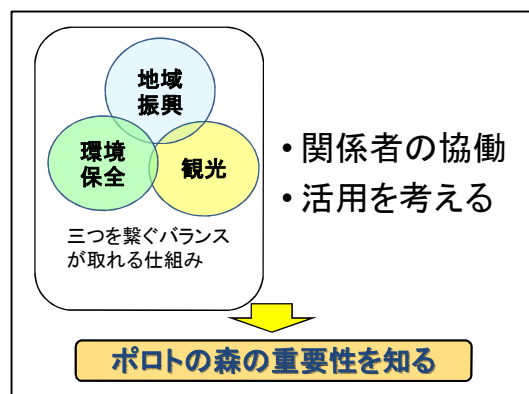


図 1 第 21 回白老森林フォーラム

その後、町役場・観光協会・自然ガイド団体・当管理署でパネルディスカッションを行い、植物の盗掘等による被害の防止、ポロトの森で町民の関わりを深める、町ぐるみで自然ガイドの養成を目指すなど、ポロトの森の活用や保全について議論しました。

フォーラムの参加者からも「利用者のマナー対策が急務だ」、「ポロトの森の PR を手伝えたい」等、地域住民だからこそその意見が出されたにもかかわらず、「では、具体的に何をどうするか」というその後の検討がなされていませんでした。

そこで、当管理署の呼びかけでポロトの森の関係者が協働を図り、地域資源としてポロトの森をどう活かしていくかを考える協議会を発足させるに至りました。

協議会は三年を目処に運営していく予定で、初年度はポロトの森の資源の洗い出し、二年目はその確認と活用を検討、三年目は協働による実現を目指すという見通しです。

4. 取組みの経過

当協議会は、平成 24 年 7 月に白老町、観光協会、一樹会、白老の自然を考える会、アイヌ民族博物館、当管理署の 6 団体により発足してから、これまでに 3 回開催しています。各団体の主な活動は次の通りです。

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| ・白老町 | ー地域資源の発掘、情報の共有、観光人材の育成等 |
| ・白老観光協会 | ーイベント企画・運営、誘客宣伝活動等 |
| ・一樹会、白老の自然を考える会 | ー地域の自然・歴史・生活文化等のガイドサービスや啓発活動 |
| ・アイヌ民族博物館 | ーアイヌ文化の伝承 |
| ・胆振東部森林管理署（協議会事務局） | ー公益を重視した森林管理 |
- ※敷田教授には引き続きオブザーバーとしてご協力いただいています。

協議会では主に以下の 6 つの検討テーマで意見交換を行い、現地検討も行いました。

① ポロトの森にある地域資源の発見

ポロトの森の資源を探すにあたり、当管理署が作成したパンフレット「ポロトの森ガイド」があります。パンフレットにより資源の情報はある程度整理されていると言えますが、協議会では再度、地域にある特徴的な自然・文化的資源の情報を整理し直しています。

森ではエゾリス、エゾモモンガ等の野生動物に出会えますし、春はミズバショウやオオバナノエンレイソウ、夏はホタル、秋は紅葉、冬は湖でのワカサギ釣りやスケート等、四季折々の自然を楽しむこともできます。

また、協議会で挙げられた「国内外の雪の少ないところからの観光客は雪や寒さが珍しいようだ」、「首都圏の人たちは豊かな自然に癒やされるようだ」といった意見により、我々にとって身近にあるため感動がないものでも、よそから来た人にとっては魅力あるものとなることに気がつきました。



図 2 パンフレット「ポロトの森ガイド」

② 地域資源の商品化（活用）

利用者がポロトの森に来る「目的」となるよう、検討テーマ①で挙げられたものをどう活用していくか、その方法を考えます。

現在ポロトの森の資源を活用したものとして、夏場のホテル観察会や、冬場のワカサギ釣り、雪の上に残った動物の足跡でのアニマルトレッキングが実施されています。こういったイベントのよう



写真2 ポロト湖でのワカサギ釣り

に、人々がポロトの森に触れてもらうための新たな方法を検討しています。例えば、環境教育の場としての利用や、アイヌ文化と森林の関係をテーマにしたツアーができないか、といったことです。

また協議会を通じ、現在あるパンフレットはハリギリの巨木の場所や、カヌーの貸出の情報が記載されていないなど、情報が古いままであるということを認識できました。パンフレットの内容を見直し、充実したものに更新することもこれから取り組む課題の一つであると考えています。

③ マーケティング

ポロトの森は白老町市街地に隣接し、森林散策や温泉入浴施設等で地域住民に親しまれていますが、町外での知名度は高くありません。ポロトの森の入口にあるアイヌ民族博物館は、年間約20万人の来館者がありますが、先述のとおりポロトの森の利用者数は年間約25千人程度です。



写真3 野営場

この人たちをもう一步森の方に引き寄せるには、ポロトの森の情報をどのように発信していけばよいのでしょうか。

情報発信の方法もですが、まずPR不足であることが指摘されたため、協議会ですぐに取り組める活動として、「ポロトの森ガイド」をこれまでより普及させることにし、北海道森林管理局HPへの掲載や、各団体の協力を得て、町内外の駅や観光スポット等に置かせてもらいました。

④ リスクマネジメント

休養林では、利用者に安全・快適に過ごしていただく必要があります。現在、利用者に対してウルシや蜂、ダニなどへの注意喚起や、植物の採取禁止が徹底されていないということがわかりました。



写真4 もみじ平

ポロトの森にはかつて、エンレイソウやフクジュソウなどが群生していましたが、盗掘の被害により今ではほとんど見ることはできません。植物の採取に関して、過去には罰則を明記した看板が設置されていましたが、現在はとり外されています。自然ガイドツアーでは更なる盗掘を危惧して、「紹介したいけれど、出来ない」というのが現状だそうです。

貴重な自然を守り、ポロトの森を訪れる人全てが心地よく過ごすことが出来るよう、現状にあった看板の設置やパンフレットへの記載等、対策の具体化が課題となると考えています。

一方、これから問題となると考えられることとして、これまで人があまり入らなかった場所に多くの人が入ることで、それまでの環境が損なわれたり、地域住民との軋轢が生じたりするのではないかという意見が挙げられました。

⑤ 人材育成

現在、ポロトの森の自然ガイド団体は一つであり、メンバーも高齢で後継者が不足しています。人を呼び込み事業を継続させるうえで、イベントのコーディネートや宣伝等を行う者の存在が必要です。

自然ガイドの不足により利用者の受け入れが出来ない場合もあり、人材育成のシステムを構築し、継続的に行って欲しいという切実な意見が出されました。ですが、必要性を感じていても迅速な対応ができない状況にあります。我々にとって人材育成の課題は、取組みを具体化することが難しく、短期解決が難しい慢性的な課題であることがわかりました。

⑥ 関係者の協働のあり方

ポロトの森に関わる団体が、繋がりを持ちつつそれぞれの専門性を活かすことで、意見交換や情報共有の場ができ、課題への取組みの幅が広がるのではないかと思います。各団体と連携をとりながら地域資源の再認識を図り、活用保全の一つずつ着実に取組んで行くことが大切です。この協議会で協働のあり方を確立し、関係が続くよう取組んで行きたいと思っています。



写真 5 協議会の様子

現地検討

協議会では、各委員の意見により、ハリギリの巨木、もみじ平^{だいら}の現地検討も行いました。協議会メンバーで現地がどのような場所であるかを確認し、今後どのような活用が考えられるか意見交換を行いました。いずれも森林散策を楽しみながら訪れることのできる場所でしたが、訪れる人は少なく、ポロトの森のPR不足を実感しました。

ハリギリの巨木は、見学者が増えることによる根の踏みつけへの保全対策が必要だ、もみじ平^{だいら}は傾斜がなく、木には樹種名のプレートがかかっているため、学習の場として活用できないかという意見等、実際に現地を見たことで、資源の再発見や新たな課題がわかりました。



写真 6 ハリギリの巨木

5. 考察

協議会の発足前後で変化がみられたことは関係者の意識です。より多くの人に快適に利用してもらうため、ポロトの森はいま、施設の活用や情報提供等、ソフト面の充実が必要とされています。地域の内外へ、よりポロトの森の魅力を知ってもらうには、ポロトの森の何が魅力になるか、どのような情報発信をしていけばよいかという意識を持ち、関係者間で積極的に意見交換をするようになりました。

安全及びマナー対策等のリスクマネジメントについては、具体的な対策に取り組んでいく姿勢ができました。

人材不足の問題については、これまでの協議会で具体的な対策は打ち出せていませんが、関係者間で率直な意見を出し現状を共有する機会が持てたことは、今後の検討のスタートラインとなったことと思います。

今後の活動としては、引き続き四季折々のポロトの森の新たな資源・魅力を探し、情報を整理し、発信していきたいと思っています。現地検討についても、これまでは夏から秋にかけてのものでしたので、冬のワカサギ釣りやかんじきウォーク、春のミズバショウ等をはじめとする、冬から春にかけての資源を活用していきたいと思っています。

また、「森＝自然豊かな場所」のイメージだけでなく、ポロトの森だからこそ認められる価値を引き出し、地域の人にも認識していただく機会を設けることができたらと思います。

協議会は始まったばかりであり、関係者との話し合いが深まるにつれて、新たな課題や問題点が出てくると思われますが、ここで交わされた意見が軸となり、今後の具体的な活動に発展していけるようにしたいと考えています。

～協議会の開催により～

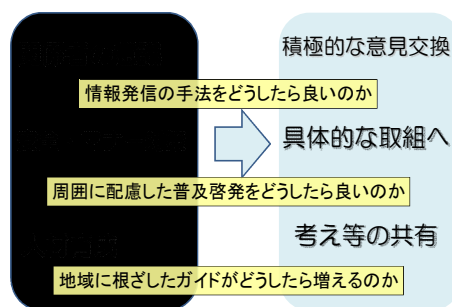


図 3 考察

地域資源～ポロトの森～

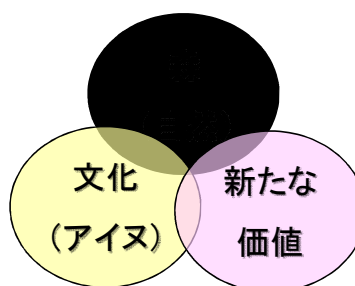


図 4 協議会の目指すポロトの森の将来像



写真 7 エゾモモンガ(左)・シマリス(右)

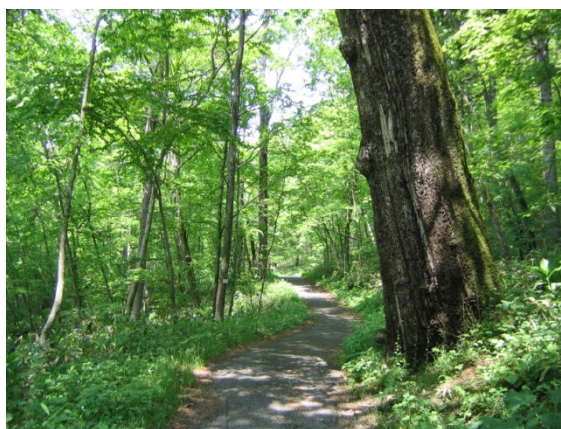


写真 8 遊歩道

写真提供：白老観光協会